

### 3. 各グループの活動報告

#### (1) 授業連携グループ

##### 【要約】

本年度は学士力の向上にむけた取り組みとして、昨年度に引き続き①「国語表現」と「子育てカンファレンス」、及び②「国語表現」と「乳幼児心理学」それぞれの授業科目における授業連携が実施された。さらに本年度は学士力の効果測定として、学士力に対する本学学生の自己評価アンケートを実施し、各専攻、各学年間による平均値の比較を抽出した。

また、各授業のシラバスにその授業で重点的に育成される学士力項目のチェック欄を設け、次年度シラバスから反映される方式が採用された。

##### 1) はじめに

本学における学士力の向上を目的とした各教科目の縦・横の連携を実施するためには、教職員間で学士力を意識した授業交流を行い、教職員全員が全教科の授業概要を把握していく必要がある。そのためのひとつの手段・実践方法として「授業連携」があげられる。同一の学士力の育成を共通認識し、複数の授業が関連しながら受講生に相互作用することを通じて学士力の向上を図ることを目的とする。本年度は「国語表現」、「子育てカンファレンス」、「乳幼児心理学」において授業連携を行った。

また、一方で本学学生が自分の学士力をどのように自己評価しているのかを調査し、今後の授業連携の取り組みに活かすことを目的として学士力アンケートを実施した。学士力向上のためには、どのような学習のプロセスが重要視されるべきであるのか考察すべきである。

さらに、各授業科目のシラバスにその授業で重点的に育成される学士力の項目欄を設け、事前に受講生に学士力に対する意識づけを促すことは、学生自身のみならず学士力形成に向けて教員自身が授業展開を再考する上で重要な準備の段階といえる。そのため、次年度シラバス上での関連を示すための設定を行った。

## 2) 学士力の向上にむけた取り組み

### ① 授業連携の試みⅠ

#### —平成22年度の「子育てカンファレンス」の連携を受けて—

総合的な学士力形成を目指すには、初年次教育でつくりあげた土台を専門科目でいかに反映させるかが課題となる。平成22年度は、「国語表現」「プレゼンテーション」「子育てカンファレンス」の授業連携を行った。平成22年度の実践では、『国語表現』で学んできた論理的構成「はじめ・なか・まとめ・むすび」と『プレゼンテーションⅠ』で学んできたPREP方法（主張・理由・具体例・結論）について想起させた。そして、発表内容を分類し、意味づけをすることは、構造を持つ思考の流れそのものであることを説明した。このような連携により、論理的思考と専門知識との関連性が学生にとっても明確となったといえる。しかしながら、最後の発表場面においては、全員で前に出て発表するというものであり、プレゼンテーションで学習したパワーポイントの使い方や視覚的刺激的の使い方などが生かされなかった。

そこで、本年度は、同じ「子育てカンファレンス」の中に、授業連携として認知心理学の視点とプレゼンテーションの学習内容を取り入れ、**論理的思考+PREP法+専門的知識（認知心理学&発達心理学）+パワーポイント**での発表という連携を意識した授業構成とした。加えて、コルズのレポート機能とアンケート機能を駆使し、**双方向の授業構成**を試みた。手順としては、論理的思考+PREP法+専門的知識で、与えられた課題について議論し、その結果をパワーポイントとしてまとめる。作成されたパワーポイントは、すぐにPCからコルズのレポート機能を使ってアップして、コルズからパワーポイントを開いてみんなの前で発表する。発表を聞いた他の学生は、発表後すぐにコルズのアンケート機能を通して感想や質問を記載する。記載された感想を黒板に映し出し、みんなで共有するという流れで授業を展開した。



図1. 学士力を意識した授業連携の様子

### ② 授業連携の試みⅡ

#### —「乳幼児心理学」との連携を通じた効果測定—

1年次秋学期開講の講義科目（受講者数約130名）「乳幼児心理学」において、1年次春学期の「国語表現」を受講した成果が、どのように関連し、表れるのかを明らかにすることを目的として授業連携が実施された。

本授業では、「国語表現」において育成されるものと想定される「情報の伝達・受容⇒整理理解⇒アウトプット（情報概要の記述）」という一連の論理的構成技術の習得を、さらに継続させる方向による連携が実施された。具体的には、受講生は毎回の講義時にスクリーン等に掲示された情報・知識を各自のノートにメモした上で、さらにそれらのテーマおよび概要を整理された形態でまとめ上げたものを毎回提出する方式がとられた。

この連携的な方式のなかで、受講生は知識の習得に至るまでのより細分化されたプロセス（情報の取捨選択—記録作業—テーマに沿った情報整理—知識としての保存）が専門知識の習得を目的としてより実践されることとなる。

以上のような授業連携の実践と本科目の最終試験の得点とがいかに関連するのか明らかにするために、各受講生の全講義分のノートを提出させた上で最終試験の得点との比較を行った。試験問題の内容は本科目における知識の習得レベルを純粹に測るものであり、記述式ではないため客観的な得点としてのデータが存在する。一方、提出されたノートに関しては、おおよその評価区分は目視により可能であるが細分化された評価は不適切であるため、3段階程度の評価区分（上／中／下）を設定した。

調査の結果、ノートの評価区分が「上」の受講生では、そのうちの8割以上が最終試験の得点結果が85点～100点であった。それに対して、ノート評価区分「低」の受講生の8割以上において、最終試験の得点結果が70点以下となっていた。

これらの結果の検討については、さらに精査されるべき課題も多く残されている。しかし、本授業連携で育成される学士力の要因は、授業を通じた専門的知識の習得プロセスに大きく関わっていることが明らかになった。したがって、本学全体としての学士力をより意識した授業の連携が、本学学生における他の授業科目のパフォーマンスに密接に関与し相乗効果を発するものとして、今後さらなる連携が期待される。

### ③ 学士力に関する意識調査

#### －学士力アンケート調査結果について－

College & Career Skills (CS)の授業時間を通じて、学士力の各項目に対する本学学生自身による主観的な自己評価を、アンケートによって回答する調査を実施した。

アンケートの回答項目は詳細にわたっているが、本年度では各専攻および学年集団ごとでのおおまかな平均値の比較を試みた。結果は以下（表 1）の通りである。回答方式は5件法で「とても身につけている」=5、「身につけている」=4、「どちらともいえない」=3、「身につけていない」=2、「まったく身につけていない」=1としている。

両専攻とも学年別で平均値に差のあるといえる学士力の項目は少ない。特にこども心理専攻で学年によって差が生じた項目の結果はないといえる。一方、こども保育専攻では、「市民性」で1年生の平均が2.68ポイントであるのに対し、4年生のそれは3.00ポイントになっている。また、「生涯学習力」においても1年生の平均が2.51ポイントであるの

に対して、4年生のそれは2.85ポイントとなっている。以上の結果については多様な解釈が考えられるが、そのひとつとしてこども保育専攻学生の免許・資格関連の実習経験を挙げることができる。つまり、実習を経験していくことによってこれらの学士力に関する自己評価が高められるというものである。一方、こども心理の学生にはそれに類似する学習経験を積む学生はほぼいないからである。実習におけるどのような経験・学習プロセスが学士力の自己評価に有効であったのか検討するとともに、それらと同様の効果を生み出す、あるいはさらなる向上を促す環境づくりとしての授業連携を考えることが必要である。

表1. 平成23年度学士力アンケート専攻・学区年×各項目クロス集計表結果

専攻・学年	社会性		市民性		受容性		倫理観		生涯 学習力		課題 解決力		創造力		回 答 者 数	
	平 均 値	標 準 偏 差	平 均 値	標 準 偏 差	平 均 値	標 準 偏 差	平 均 値	標 準 偏 差	平 均 値	標 準 偏 差	平 均 値	標 準 偏 差	平 均 値	標 準 偏 差		
こども 保育 専攻	1 年	2.58	0.56	2.68	0.65	2.78	0.67	2.54	0.71	2.51	0.73	2.39	0.67	2.31	0.71	150
	2 年	2.55	0.65	2.70	0.71	2.85	0.72	2.64	0.73	2.46	0.65	2.30	0.70	2.21	0.68	83
	3 年	2.65	0.49	2.62	0.59	2.80	0.52	2.49	0.71	2.57	0.55	2.39	0.56	2.30	0.62	45
	4 年	2.66	0.51	3.00	0.56	2.98	0.57	2.69	0.58	2.85	0.73	2.49	0.67	2.40	0.66	47
こども 心理 専攻	1 年	2.61	0.62	2.72	0.71	2.78	0.65	2.55	0.68	2.44	0.69	2.37	0.65	2.29	0.64	86
	2 年	2.63	0.46	2.84	0.66	2.96	0.62	2.61	0.66	2.35	0.80	2.39	0.64	2.31	0.64	74
	3 年	2.59	0.47	2.74	0.55	2.99	0.56	2.62	0.64	2.42	0.78	2.20	0.58	2.24	0.52	37
	4 年	2.64	0.59	2.75	0.52	2.98	0.67	2.54	0.76	2.46	0.71	2.32	0.65	2.19	0.71	40
無効・ 無回答	2.63	0.50	2.89	0.74	2.82	0.59	2.82	0.72	2.71	0.70	2.60	0.62	2.52	0.71	14	

#### ④ 各授業シラバスにおける学士力項目欄の設定

次年度授業に向けての各シラバスに、当該授業で重点的に育成されることを想定する学士力の項目を各担当教員からあげていただくように設定した。

この設定により、学生は科目履修時に事前に学士力を意識した履修登録を行うことが可能となるだけでなく、当該授業の担当教員においても、重点選択した学士力項目を意識した授業展開が望まれることとなる。つまり、学士力の向上にむけた両者の協同的な営みが実現されることとなる。

ただし、一方で非常勤ならびに新任の教員に対しては、学士力に関する事前の十分なレクチャーが不可欠となるため、学士力の概念に関する説明担当（者）を明確化しておくことが必要となる。

### 3) 今後に向けて

- ・次年度以降、授業連携に関しては引き続き効果測定の実施および共通の学士力育成を目的とする授業間での連携のあり方の実践ならびにそれらの報告が望まれる。
- ・学士力アンケートについては、追跡的な調査データの収集とその分析結果の報告が必要である。
- ・授業シラバスにおける学士力項目が設定された上で、授業を通してそれらが学生にどのように認識されたのかをアンケートによって把握される必要がある。